

用語の解説

【アルファベット】

BDF

バイオディーゼル燃料 (Bio Diesel Fuel) の略。生物由来の油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称。

ESCO (エスコ) 事業

Energy Service Company の略。工場やビルの省エネルギーに関する診断をはじめ、方策導入のための設計・施工、導入設備の保守・管理、事業資金の調達等包括的なサービスを提供し、それまでの管理を損なうことなく省エネルギー改修工事を実現し、その結果得られる省エネルギー効果を保証すること。改修経費は全て省エネによる経費削減で償還され、残余は工場やビルのオーナーの利益となる。

EV・PHV タウン構想

EV (Electric Vehicle の略) は電気自動車を意味する。PHV はプラグインハイブリッド車の略。EV や PHV の初期需要を創出するため、特定地域において車両導入、充電インフラ整備、普及啓発を集中的に行うモデル事業。

ITS

Intelligent Transport Systems の略で、道路と車を通信で結び、安全で快適に移動する高度道路交通システムのこと。

LCA 評価技術

LCA は Life Cycle Assessment の略。資源採取から素材生産、部品製造、加工組立、流通販売、使用、廃棄・リサイクルに至るまでに排出される二酸化炭素排出量を定量的に計算し、環境への影響を数値的に表示する評価技術のこと。

LED

Light Emitting Diode (発光ダイオード) の略。電気を流すと発光する半導体の一種。

NPO

Nonprofit Organization (特定非営利活動法人) の略。様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称。

【ア行】

アイドリング・ストップ

自動車の駐停車時に不必要なアイドリングをしないようにエンジンを切ること。燃料の消費を抑え、CO₂や窒素酸化物の排出を抑制することができる。

ウインドファーム

風力発電設備を集中的に設置した大規模な発電施設。

浮き皮果

果実の成熟につれて、果皮がゆるみ、果心部と隙間を生じた果実。

エコ・アクションポイント

地球温暖化対策型の商品やサービスを購入した消費者に対しポイントを付与する。貯まったポイントは他の様々な商品やサービスとの交換が可能である。

エコタイヤ

普通のタイヤに比べ、転がりやすくガソリンの節約ができるタイヤ。

エコドライブ

穏やかな運転(急停車・急発進・急加速等しない)を行うことにより、燃料を節約してCO₂の削減に寄与する運転技術。

エネルギー管理士

エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、規定量以上のエネルギーを使用する特定業種の工場に配置することが義務付けられている、エネルギーを消費する設備の維持、エネルギーの使用の方法の改善及び監視等の業務を行う者。

【カ行】

カーシェアリング

1台の車両を世帯の異なる複数の者が共同で利用する形態。

カーボン・オフセット

市民、企業等が自ら排出する温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分については、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせること。

カーボン・フットプリント

商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組み。LCA（ライフサイクルアセスメント）手法を活用し、環境負荷を定量的に算定する。

花芽（かが・はなめ）分化

植物の成長過程において、発生する内部変化で花芽が形成されること。

環境対応車

CO₂や排気ガスの発生を大幅に低減させることができるエンジンや動力源を備えた自動車。ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車等。

環境配慮物品

国や地方自治体が、製品の製造から廃棄までの過程において定めた基準を満たすとともに、環境ラベル（エコマーク、グリーンマーク等）の認定を受けている物品または、これと同等のもの。

環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくこと。

間伐材

森林の木々が成長して林内が過密になってくると、光が地面まで届きにくくなり、下層植生が発達せず、水源の涵養機能などが低下するとともに、木々が健全に育つことが難しくなる。このため、木々の一部を伐ることで、森林全体を健全な状態に保つ

作業を間伐といい、その際に伐採される木材を「間伐材」と呼ぶ。

グリーン化

環境基本法の理念に基づき、官公庁施設における計画から、建設、運用、廃棄に至るまでのサイクルを通じ、環境負荷を低減させること。

グリーン購入

企業や国・地方公共団体が商品の調達や工事発注等に際し、できるだけ環境負荷の少ない商品や方法を積極的に選択する購入方法。

グリーン証書

国や地方自治体が、再生可能エネルギーを源とした電力に対し発行する CO₂ 排出削減量を証する書。

クレジット化

二酸化炭素の削減・吸収事業における削減量・吸収量として、公的な機関による認証を受けること。

グローバルウインドディ

欧州風力エネルギー協会が、一般市民の風力発電に対する理解を促進するため、2007 年から毎年 6 月 15 日に開催している普及啓発イベントの開催日。

高効率給湯器

エネルギーの消費効率に優れた給湯器。

コージェネレーション

燃料を用いて発電するとともに、その際に発生する排熱を冷暖房や給湯、蒸気等の用途に有効利用する考え方。

国内クレジット制度

京都議定書目標達成計画（平成 20 年 3 月 28 日閣議決定）において規定されている、大企業等による技術・資金等の提供を通じて、中小企業等が行った温室効果ガス排出削減量を認証し、自主行動計画や試行排出量取引スキームの目標達成等のために活用できる制度。平成 20 年 10 月に政府全体の取組みとして開始された。

【サ行】

サーマルリサイクル

エネルギー・熱を回収するリサイクルのこと。

再生可能エネルギー

自然環境の中で繰り返し発生する現象から取り出すことができる無尽蔵なエネルギーの総称。具体的には、太陽光や太陽熱、水力や風力、バイオマス、地熱、波力、廃棄物の焼却発電等。

紫外線除去フィルム

紫外線による光の領域しか視覚できない昆虫の生態を利用した、病害虫の発生を予防するためのビニールハウス用農業資材。紫外線がハウス内に入っていないため、ハウス内の昆虫は視力が機能せず、病害虫の発生を予防できる。

次世代エネルギーパーク

地球環境と調和したエネルギーの在り方に関する国民の理解の増進を図るため、太陽光等の再生可能エネルギー設備や体験施設等を整備した経済産業省が認定する施設。

次世代自動車

次の世代において環境面から普及が期待される自動車。環境対応車。

市町地球温暖化対策協議会

市町民主導による地球温暖化対策の推進を目指し、事業者団体、消費者団体、森林関係団体、学識者及び行政機関等の委員により構成された、地球温暖化対策の推進に関する法律第26条に基づく地球温暖化対策地域協議会としての市町域組織。

出蕾（しゅつらい）

形成された花蕾（からい）が葉の間に肉眼で見えるようになること。

省エネ住宅

国土交通省が定める住宅の省エネルギー基準に合うような、室内環境を一定に保ちながら、使用するエネルギー量を少なくできる住宅。

省エネ診断

建物の空調設備や照明機器、熱源供給設備等のエネルギー技術量を調査・分析し、省エネルギー化を進める改善策を提案すること。

白未熟粒

玄米の全部又は一部が乳白化したり、粒が細くなったもの。

スマートグリッド

エネルギーやエネルギー供給コストを節約するため、情報伝達技術を活用し、火力、風力、太陽光等様々なエネルギー供給源を効率的に運用するシステムのこと。

【夕行】

潮流発電

潮の干満の差により生じる流れを利用した発電システムのこと。

定植

植物を苗床から庭や畑に移して、本式に植えること。

電気自動車

EV (Electric Vehicle の略) ともいう。電気のみで走り、家庭で充電が可能。走行時のCO₂排出はない。

天然ガスコージェネレーション

天然ガスを燃料に用いて電気をつくり、同時に発生する廃熱を蒸気・給湯・暖房・冷房などに有効利用するシステム。

電力デマンド監視装置

30分単位における最大需要電力の値である電力デマンド値を常時監視する装置。

登熟(とうじゅく)

スイカやメロン等が肥大を完了した後、果肉の色、味、肉質が次第に良くなり、完全に熟す過程のこと。

【ナ行】

長崎県環境基本計画

環境基本法、長崎県環境基本条例に基づき平成12年に策定した、県の環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画。

長崎県未来につながる環境を守り育てる条例

従来の公害防止条例、自然環境保全条例、環境美化の推進に関する条例を引き継ぎ、新たに「地球温暖化対策」「光害対策」「生物多様性の保全対策」「ごみの投げ捨て対策」「公共の場所での喫煙対策」等の規定を追加した県条例。平成20年3月公布、4月施行。

燃料電池

水の電気分解と逆の原理で、水素等を原料とし、空気中の酸素と化学反応させて電気をつくる発電機。

ノーマイカーデー

地方自治体が行っている、地球温暖化防止や交通渋滞の緩和、大気汚染抑制等のために、自家用車利用を控え公共交通機関を使うよう呼び掛けるキャンペーン。

【ハ行】

バイオマス

エネルギー源として活用可能な木製品廃材やし尿等の有機物のこと。

バイオマス燃料

エネルギー源として活用可能な木製品廃材やし尿等の有機物を発酵させ、可燃性ガス（メタンガス）を生成し再生利用する燃料。

バイナリー発電

加熱源により、沸点の低い媒体を加熱・蒸発させ、その蒸気でタービンを回す発電方式。

ハイブリッド車

低公害車の一種で、低速では電気を使い、高速では、ガソリンを使って走る自動車、または、エンジンを使って発電し、その電力でモーターを回して走る自動車のこと。

発光ダイオード

半導体に電流を流して光を放出させるようにした半導体部品。英語の頭文字を並べてLEDともいう。

パーク&ライド

郊外や都市周辺の駅・バス停近くに駐車場を整備し、マイカーから鉄道・バスなどの公共交通機関に乗り換えることにより、都市部の交通渋滞の緩和を図る方法。

葉焼け

強い直射日光のために、葉が部分的に白くなったり、枯れること。

日焼け果

果実の表面が急に強い直射日光を受けて高温になり、「火傷」したもので、進行すると果実が割れてしまう。

ヒートポンプ

温度の異なる二つの熱源を利用して冷却や加熱を行う装置のこと。

フェロモン剤

昆虫などが分泌し、各種刺激反応を起こさせる農業資材。環境汚染のない新しい農薬として注目されている。

賦存量

理論的に算出できる潜在的な資源量のこと。

プラグインハイブリッド車

電気自動車とハイブリッドカーの利点を合わせた、ガソリンエンジンと電気モーターを併用するハイブリッド車（HV）を進化させた自動車。一般的なハイブリッド車がエンジンで内部発電するのに対し、電池容量を増やし外部からの充電も可能にすることで、電気モーターで走行できる距離を伸ばす。電気を用いる比率が高まるため、CO₂削減や大気汚染防止の効果がより期待できる。

フロン

正式には「クロロフルオロカーボン」といい、炭化水素に塩素やフッ素が結び付いた化合物の総称。このうち、クロロフルオロカーボン、ハイドロクロロフルオロカーボン、ハロン、四塩化炭素、1,1,1,-トリクロロエタン、臭化メチル及びハイドロブロモフルオロカーボンの7物資がオゾン層を破壊する物資として、「モントリオール議定書」で生産量及び消費量の削減が義務付けられている。

防蛾灯

夜間に活動する蛾(ハスモンヨトウ)を昼間と勘違いさせて行動を抑制するために灯す、黄色く光る電気の明かりのこと。

防虫ネット

虫の侵入を防止する農業用のネット。

【マ行】

みつ症

果肉の一部が半透明な水浸状になる症状。症状が進むと果皮が潤んだようになり、果肉全体がスポンジ状になることもある。

マテリアルリサイクル

素材・物質を回収するリサイクルのこと。

緑のカーテン

アサガオやゴーヤ等のつる性植物を窓側に繁茂させることにより日陰を生み出し、室温上昇を抑えることで、エアコンの使用を控え、節電や二酸化炭素排出量の削減を図る取組。

メガソーラー

発電規模が巨大なメガワット(MW)単位以上の太陽電池発電システムのこと。(1メガワットは1000kW)

メタン発酵

メタン菌の持つ代謝性を利用して生ごみ等有機物由来の廃棄物を分解させること。

木質バイオマス

「バイオマス」とは、生物資源（bio）の量（mass）を表す言葉であり、「再生可能な、生物由来の有機性資源（化石燃料は除く）」のこと。そのなかで、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」と呼ぶ。木質バイオマスには、主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類がある。